

若手作家作品 釜山で上映

12日から国際短編映画祭

韓国・釜山市で12～16日に開かれる「第30回釜山国際短編映画祭」(BISFF)で、福岡市の自主製作映画祭「福岡インディペンデント映画祭」(FIDFF)の出品作が特集上映される。

BISFFは、アジアの映像作家の登竜門として知られ、「シュリ」(1999年)のカン・ジェギョ監督らを輩出している。今年はコンペティション部門に約1300作品の応募があり、このうち約60作品

が上映される予定だ。

また、FIDFFは、アジアフォーカス・福岡国際映画祭の協賛企画として、



「Candy of the Youth」の一場面 (FIDFF提供)

昨年9月に初めて開催された。始まったばかりのFIDFFは、伝統のあるBISFFと「姉妹映画祭」の関係を結び、出品作を互いに上映し合うことにした。

釜山で特集されるのは、福岡県行橋市在住の映像作家、橘剛史さん(22)の「Candy of the Youth」など6作品。20歳代前半の若手作家の作品が選ばれた。13～15日、計4回上映される。橘さんの作品は、BISFFのオープニング上映にも選ばれた。

FIDFF代表で、アジア映画を研究している熊本県立大非常勤講師、西谷郁^{かおる}さん(36)は「世界中の映像作家が集まる舞台で、交流を深めてきたい。将来は、互いの都市を舞台にした作品を撮りたい」と話している。